

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	さっぽろ不登校サポート
資金分配団体名:	特定非営利活動法人 なごみ
実行団体名:	特定非営利活動法人北海道NPOファンド
実施時期:	2021年2月～2023年1月
事業対象地域:	北海道
事業対象者:	不登校引きこもり状態にある本人、家族

Version 3.2

日付: 2022年3月31日

## I. 事業概要

事業実施概要	学校へ行けるようになるためのアクションプランや、アプローチ(訪問相談、メール・電話相談・情報提供)、学校へ行けなくても引きこもりでも「居てくれるだけでいい」環境の支援、勉強を学ぶことができる仕組みを確立する。学校へ行けない子どもたちの初期は、うつ傾向になっていて、家に閉じこもってしまっている。外への居場所へ参加させることは、現実的ではない。そこで訪問型支援を中心に子ども、親のサポートをしていくプラットフォーム的機関である。段階を踏んで、訪問相談、訪問支援、移動支援、学習支援等を導入していける仕組みを持つ。
--------	---

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>不登校引きこもり状態の当事者、親への訪問支援を通して見えてきたことは、想定はしていたが、不登校、引きこもり状態と一口に言っても実に多種多様で、様々なケースがあるということ。事例に出会う度に、早期発見、早期対応の大切さを感じている。不登校・引きこもりの子どもであっても一律に通じる「不登校、引きこもり対応策」というものはなく、状態に応じて、こちらの「打つ手」も違ってくる。そしてどんな手を打つかは、状態についての「見立て」によって異なる。</p> <p>特に、不登校、引きこもり状態に隠れた障がいからの二次障がいとして起こっているケースも多く存在し、特別支援教育の視点は特に重要なものになっている。LD(学習障害)、ADHD、高機能自閉症等の軽度発達障害の二次障がいとして不登校、引きこもりが考えられるケースは多い。特にコロナ渦においては、強迫性神経症を患っているケースは自宅訪問なども拒否が強いのと、コロナの恐怖から外へでられないので、オンライン対応でつながりを続けているケースもあり、多種多様な支援方法を今後も発掘していく役割もある。</p> <p>この訪問支援の仕組みと理念を地域に発信し人的なファウンドレイジングを構築していくことこそ今後の活動の肝になる。</p> <p>プラットフォームには専門家を配置し、専門家がアクションプランを作成していき、その活動を支援してくれる方々が必要であり、旗揚げをして手を挙げてくれている地域住民も想定より多くいたので、その方たちに引きこもり支援の研修を受けてもらい応援者を増やしていくことが必要不可欠である。</p>
-------------------	--

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	不登校	一歩踏み出せるための引き出しが多いほうがいい。	情報発信基地での情報発信	外出、居場所への参加者数100名	外出参加のべ13名 居場所参加者のべ72名	外出先は、美容室、歯科、病院など生活に最も重要な緊急性のある外出が多かった。 居場所提供はどの福祉サービスにも該当しない子ども、若ものが集って日中活動を行った。
子ども・学生	不登校	当事者のニーズがわからない。 本人の興味関心を知るため 支援方針、支援案を作るため。	対象者のニーズ調査 居場所→なごみ学院申込書にて調査	調査にてニーズ把握、支援方針、支援案作成	打つ手に応じて支援方針、支援計画、学習計画作成。	義務教育終了後の居場所に困っている子どもたち、親が多数いることがわかった。15歳からの受け皿になりうる居場所提供が急務。支援計画、学習計画、就労計画の三本柱でスタート。
子ども・学生	不登校	学校との連携	高校に入るための出席認定 中退時の引継ぎを受ける	当事者、本人の現状把握と今後の方針付け	なごみ学院入学後の目標設定。	当事者と親とのデマンドが目立つ。すぐに高校卒業認定を目指すなどという目標を立てるのは当事者の負担が大きいため、考える選択する時間を与えてもらえるように入会説明で行った。
子ども・学生	不登校	学校との連携	親/本人との間に入る。 本人と学校を繋ぐ、離れないようにする	NPOと学校との連携は現実的かのチャレンジ	とくにいじめ要素が絡むことに関しては外部者として扱われ全く相手にされない。	学校の窓口は教頭先生であり、家庭と学校、教育委員会と深く結びついていく仕組みの中で、NPOや民間団体が入るスキは全くない。
子ども・学生	不登校	人的ファンドレイジング 地域の活動家を募集、研修	不登校引きこもり活動支援のサポーター募集	地域住民5名募集開始 1月	2022年4月開講予定	ボランティア活動を希望している地域住民に協力要請を行った。反応はある。
子ども・学生	引きこもり	就労支援、再就職支援体制の確立	就労支援 企業でのインターンシップ 職場体験	就労継続支援B型との連携により可能	学習支援のみならず、就労支援も併用しておこなえる機関として注目を浴びた。	当事者、親、企業、中間機関が連携することで新たな支援体制が確立された。

## IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	不登校、引きこもり状態の方が一歩自分から踏み出せることを目的に、引きこもり状態の理解・コロナ渦における社会的背景の多様性を踏まえ、情報発信基地をつくり、その情報をもとに本人が理解し納得し行動を起こせるまで、そして起こした後のフォローをすることで、リアルな人とのつながりの中で、「民間団体、青少年機関、保健医療福祉機関、労働機関等」と連携体制を確立し、支援者の専門家と地域の引きこもり支援者でなりたつ応援団チームで「相談支援、居場所支援、就労支援、社会的自立支援」を行う情報発信基地(プラットフォーム)を行う。
考察等	義務教育中の不登校の子どもたちが義務教育を終えた時の受け皿が少なく、情報もない。15歳で社会に出される。学習と就労どちらも背負い当事者も家族も混乱状態である。不登校の子ども情報発信基地を広げ、引きこもり状態の若者までを対象とする情報発信基地と居場所提供を急務とする。 リアルな居場所にこだわりたい理由としては、引きこもり状態の当事者は「ツイキャス、ボイチャ、オンラインゲーム」というネット上に居場所を置いているケースが多く、そこで人間関係に悩んでるケースも多い。

## V. 活動

活動	進捗	概要
告知活動	ほぼ計画通り	HP作成、Facebook連動、問合せフォーム作成、チラシ三つ折り、A4版作成、相談支援事業所等に郵送。HP、Facebookアクセス数管理、郵送物からの反応は薄い。口コミが一番繋がりが早い。
訪問型支援	ほぼ計画通り	訪問件数は月当たり5件が人材的にも支援の質の確保にも限界数だった。訪問支援から繋がる外出支援、居場所提供で繋がりを持って行けた。
講演会、当事者会	中止	コロナ渦でなかなか予定通りの開催に至らなかった。3月下旬に予定していた会は中止にならざるを得なかった。今後開催したい。
情報発信基地の展開	ほぼ計画通り	居場所提供で間借りしていた物件から、広く誰でも訪問でき、個人情報が保護される相談場所を設けることができた。
支援体制の確立	ほぼ計画通り	障がいの福祉サービス以外の繋がりを新たに構築できた。学校、若者サポートセンター、不登校の子どもを受け入れてくれる教育機関など。
居場所提供	ほぼ計画通り	居場所に情報発信基地、相談機能を設けることができ、多機能型として再起動できた。
就労支援体制	ほぼ計画通り	就労を目指すひきこもり状態の子ども、若ものに働く選択肢を持てる訓練、体験機能体制を作った。

## VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	不登校、ひきこもり状態の子ども達が学校や活動場所に通っていない場合に自宅でなにをしているか、そこに日中活動のニーズがあるのではないかと、研究材料としてニーズ調査をしてみたところ、人との繋がりは持ちたいという気持ちからオンラインでの繋がりが大半を占め、長時間オンラインをしていくうちに同じ境遇の子どもたちとオンラインで出会っていくようになる。そこで新たな人間関係の悩みに直面することもある。オンライン上での特殊な繋がりがあ。その世界にも飽きてやほりリアルで繋がりをもちたい気持ちを伝えてくる子どももいた。このことからフリースクールの要素を取り込んだなごみ学院は学校に行ってもいい。勉強しに来てもいい。遊びに来てもいい居場所として、入学というより会員制にし、月に何度来ても15,000円金額で壁を低くしてみた。希望者は食育を大切に給食(別途料金)提供もある。
---------------------	---

## VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	コロナ渦という変化が加わったことで、不登校、ひきこもり状態の状態は複雑化しより多様化したように感じる。そもそも変化についていけない特性のある子どもはあつという間に、おいて行かれた感じを受ける。日本の学校教育自体が本当に今の時代に即したものではないことは気づいていること。しかし、その一握りの学校にいけない、社会にでられない子ども達に教育や社会は平均化することは昔からないわけで、そこを訴えて改革していくというよりは、NPOなごみはそのひとり一人のニーズを大切に、その子に向き合い、折れてしまいそうな、諦めかけた希望の引き出しをひとつ一つ開けては閉めて閉めては開けて、寄り添っていく「居場所」でありたいと思って運営している。今はたくさんの人は救えないかもしれないこのやり方ではあるが、賛同者が着実に増えてきていて、この時間をかけて作り上げた仕組みにも価値が生まれてきている。今後、この仕組みの展開についてはマネタイズも含めて慎重に検討していく。
-----------	---

## VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
札幌市指定相談室みなみく	訪問支援員相談役、仕組みの監査役
札幌市委託相談室ほっと相談センター	なごみ学院見学、当事者、保護者様との訪問、会員登録同席、学校関係者との連絡調整、区役所との申請補助
村松法律事務所	いじめ関連相談業務
クリエイションライフ	HP、Facebook、パンフレット、チラシ、看板作成、告知活動コンサルティング、ファンドレイジングコンサルティング
りんごの会	親の会、情報提供先

## IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費			#DIV/0!
	管理的経費			#DIV/0!
合計		0	0	#DIV/0!

補足説明	
------	--

## X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	現在のところなし。 今後北海道新聞掲載予定あり。
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	ホームページ、訪問支援事業三つ折りパンフレット、居場所チラシ、名刺
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	チラシに掲載
4.報告書等	事業報告書はホームページに掲載予定

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。	はい	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	